

## 編集室から

「創造は想像を超えない」という法則があります。新しく創られたものはすべて、誰かがイメージ（想像）した結果、形あるものとして生まれています。スマホも自動車も全て法則とおりです。

コラム欄に書きましたが、道の駅の開業も同じです。やった事がないと想像ができない。イメージができないから、作り出すことができない。この循環を脱するには、既の実現している現場を見に行く、経験者に尋ねることからしか始まりません。そして、次に大切なことは、「やってみる」です。

産まれてすぐに二足歩行ができた人間はいません。誰しものがみな、歩いている周りを見て、歩こうとし、ハイハイから始めて何度転んでも歩こうとすることを諦めなかった。だから、みんな歩いていると思います。

人は、失敗することは駄目なことだと、いつかどこかで誤って覚えてしまうようです。そんな人は、やったことのない事への挑戦を嫌がります。できなかったことが、できるようになるためには、できるまでやってみるしか道は無いのだろうと思います。成長のために多少の失敗が許される社会・チーム環境が人を育てるのでしょう。

一方で、決して許されない失敗もあります。幼子は、それをするとうなるかまったく解っていないからこそ、大人からするととても怖いことを時にやろうとしたりします。それをやった結果、何が起こるか、それがどんなに怖いことなのか、キチンと伝えるのが大人の仕事です。叱るのは、ほんとうは意識付けのためだけなのでしょう。

四輪車製造の後発でありながらもわが国を代表するメーカーとして地位を築いたホンダの創業者・宗一郎氏は「人生は見たり、聞いたり、試したりの3つの知恵でまともになっているが、多くの人は見たり聞いたりばかりで一番重要な『試したり』をほとんどしない」と言ったそうです。（は）



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登の夜市」の姉妹店を開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

もちろん、川島さんご自身もお店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00～24:00

金曜17:00～28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2017/07

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2017/07

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 文 月



伊豆半島から富士の眺め  
by hama

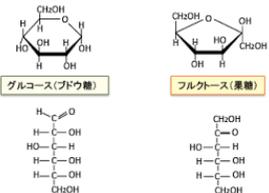
前回までは、炭水化物が決して「悪」ではないこと、炭水化物が単純糖質と複合糖質と食物繊維の三つに分けられること、の説明でした。

今回は、単純糖質について話を進めます。前回でも軽く触れましたが、単純糖質にはC<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub>。一つのもの（単糖類）と二つ結合したもの（二糖類）があります。単糖類の代表はブドウ糖と果糖で、二糖類のほとんどはブドウ糖と果糖が結合したシヨ糖（砂糖）です。

ところで、果糖と聞いて、どんなイメージが浮かびますか？果物に多く含まれているためにその名がついたことから、悪玉と思う人は少ないでしょう。むしろ最近では、低インスリンダイエットが流行ったおかげで、インスリンを出さない善玉と思われている人もいます。でも実は、人間にとって毒になりうる危険な物質なのです。

単糖類は6個ならぶので、両端が引き合つて環状構造をとります。ブドウ糖と果糖は、図のようにCとHとOの並び方が違つたため、ブドウ糖は6個のCで環状になる六員環をつくり、果糖は5個が環状で1個は尻尾のように飛び出た五員環になります。この五員環は構造的に無理があるのか、すぐ直線状に戻つてしまいます。そして直線状に伸びた単糖類は、グリケーション（糖化）といつてベタベタと色々なものに付着してしまつて性質を持っています。

グリケーションは、濃い砂糖水を鍋に入れてかき混ぜながら火にかけると茶色のカラメルができる現象と同じです。イメージとしても、体の中で褐色のメラニ



バした糖分が細胞の表面や血液中のタンパク質にこびり付くかと思うと、好い感じはしませんよね。事実、グリケーションは細胞老化や動脈硬化を早めると考えられています。こつしたグリケーションが、果糖ではブドウ糖より十倍あまり速く進むといわれていますし、血糖を上げない甘味料として売り出しているブシヨースなどの希少糖でも似た性質を持つものがあるようです。

すると、果糖は「悪」なのか、果糖の供給源であるシヨ糖を摂ると体に毒ではないのか、という結論に短絡されてしまつたのですが、複雑ですが、そこはまた話が違います。少なくとも人間では、果糖は危険な物質と充分に認識されているらしく、腸から吸収された果糖は門脈に集められて肝臓に流れ込んだら即座に、無害な他の糖質や脂肪酸に代謝されます。事実、果糖を大量に摂取しても、人の末梢血中で果糖は検出されないそうです。

似たような話で、ブドウ糖は脳にとって唯一のエネルギー源だから、勉強の間には砂糖入りの飲料を飲めば良い、という製糖会社の宣伝を聞いたことはありませんか？前半部分は間違つていませんが、後半は完全なウソです。雑食の生き物である人類は偏つた食生活にも耐えられるよう、体内でブドウ糖とアミノ酸と脂肪酸を相互に変えるシステムを豊富に備えています。つまり肉だけを食べていても、ブドウ糖が不足することは決してありません。この手の話は、いちいち取り上げているとキリがないほど巷にあふれています。もうしばらく地道に基本を押える話をしなければなりません。お付き合いをお願いします（vol）



【プロフィール】  
（いがぎ としお）金沢大学北  
浜寮で、濱さんの2年後輩で  
した。濱さんは、とつても怖  
かった…。卒業後は金沢を離  
れ、現在は温暖な讃岐高松で  
又ク又クしています。

### 濱のひびき 『ひらく』

今年、七夕に能登・羽昨市で初めての道の駅となる「のと千里浜」がグランドオープンを迎える。この日の数年前から、ビジョン・コンセプトを始め、新たな特産品・自社製品の開発、事業開発のお手伝いをしてきた。



道の駅は、既に全国で千件を超えている。県内でも後発となるこの道の駅には、新しいバージョンとなる位置づけを籠めた。本来、道の駅という国の制度は、単に道路の付属機能として休憩のみならず、地域特産品の販売を通じた地域経済の新しい循環ポンプの意義がある。ところが、多くの事例では、単に地元JAに運営を丸投げしてしまい、結果として「直売所」の域を脱することができていないのが残念に感じていた。ビジョン・コンセプトを立て、しっかりと事業を組み立てるならば、地域ブランドの醸成する現場、地元の農家・菓子店などに挑戦意識とその成果に気付いていただき、少子化・高齢化・人口減少などで閉塞感のある地域意識を今一度前進スパイラルに切り替える実験場・実践場としての意義は大きい。

羽昨市は、自然栽培の聖地を目指している。JAとしては珍しくJAはくいは、自然栽培を組織として盛り上げ、実践塾を開設。運営している。この動きに、市役所も応援。自然栽培用の耕地を開き、移住者を積極的に受け入れる体制も併せて、とっている。つまり、地域を挙げて農薬も有

機肥料さえも使わない自然栽培に挑戦している。

近年、医学の世界では、腸内細菌の驚異的な重要性が明らかになっていく。多様な腸内細菌が作り出す微生物質は、人間の健康のみならず感情・思考にも影響を与えているという。腸内フローラと名づけられている微生物群の真の働きを科学はようやく知る時代となった。

農業にとって、それは土壌に棲む多様な菌たちに相当する。かれらの働きを最大に引き出す農法によって、有機肥料すら使わず作物を育てるのが自然栽培の考え方であつて、何もしない無為・放置農業とは完全に別モノである。道の駅のと千里浜は、地元の自然栽培を軸に、地元の産物、可能な限り健康志向性のある商品を揃えている。野菜の真の栄養成分であるファイトケミカルスを多様性を含んだ野菜出汁・ベジブロスをベースにした食事も提供する。こちらは、和倉温泉・加賀屋にて活躍し数々の受賞歴を持つ、地元出身の高田シェフの腕が鳴っている。栄養価はもちろん、見た目の美しさ・美味しさの三位が一体となった料理は、これまでの道の駅のレベルを超えているはずだ。

起業支援は、開業がゴールである。一方、新次元道の駅としてビジョン・コンセプトに沿つた役割を果たせるかどうかは、開業からがスタートだ。事業が産まれる瞬間まで立会つた一人として、未永い繁栄を祈りつ、これからも見護つていきたいと思う。



プリウスPHV<sup>1</sup>という車に乗っている。外部から充電できるハイブリッド車と言えば理解いただけるであろうか。普通のプリウスではなくPHVだと気付いた方に「燃費はどのくらい？」とよく聞かれる。細かく説明するのが面倒なので、「平均で約50km/L」と答えるが、そのたびに少し心が痛む。

理由は3つある。1つ目は、毎日、電気を外部から充電するので単純な燃費だけを計算しても、その車のエネルギー効率を表すことにはならないということ。これは本質的な視点だと思うが、質問者の意図からずれると思うので、まだたいしたことはないと思う。

その点で2つ目はもっと重要である。PHVは1日の走行距離によって燃費が大きく変動する。満充電に1時間半<sup>1</sup>かかり、かつ設備が普及していないため、充電は自宅で夜間に行うことが多い。満充電からEVモード<sup>3</sup>で約20km走ることができるため、通勤の往復18kmだけだとガソリン消費はゼロであり、その日の燃費は無量大となる。一方で1日200km以上走るとなると、そのほとんどがハイブリッドモード<sup>3</sup>となり、燃費は普通のプリウスのそれとほぼ同じになる。平均燃費はEVとハイブリッドモードの比率で決まるため、ある人は30km/Lであっても別の人は100km/Lということが同じ車にもかかわらず生じる。

電費という概念を本当は伝えたいというのが3つ目である。電気自動車の効率を表す指標として電費（電力量の単位当たり走行距離：km/kWh）がある。電費は電気自動車の燃費とも言えるものであり、PHVのEVモード時のエネルギー効率は、燃費（無量大）ではなく電費で示すべきである。PHVや電気自動車ももっと普及しだすと注目されることを期待したい。

という前提のもと、私のPHVの実績値を示させていただく。総走行距離86,790kmにガソリンを1,801L消費したため、平均燃費は48.2km/Lである。そのうちハイブリッドモードが49,374kmなのでハイブリッド時の燃費は27.4km/L、EVモードで走った37,416kmは燃費無量大という内訳になる。総走行距離をハイブリッドモードで走るのに比べて、約1,366L（約17万8千円）のガソリンが節約され<sup>4</sup>、外部充電に要した費用約7万4千円<sup>5</sup>との差約10万4千円が、普通のプリウスよりも得したという計算になる。適用された補助金等の差額を考慮しても、車両価格の差はまだ埋めきれしていない。

注1：初代プリウスPHV

注2：200Vの普通充電

注3：電気だけで走行するEVモードと、電気とガソリンのハイブリッドモード（プリウスと同じシステム）があり、燃費を計算する上ではこれらが明確に区別される。

注4：37,416km ÷ 27.4km/L = 1,366 L, 1,366 L × 130円/L = 177,521円

注5：20円/kWh × 0.1kWh/km × 37,416km = 74,832円

現在45歳の私も物心ついた時から当たり前のように日曜の夜6時30分にテレビから流れてくる「お魚くわえたドラ猫……」のオープニングソング。サザエさんシンドロームという言葉も出てくるくらいですから国民的漫画・アニメであることは間違いありません。今は6歳の娘はもちろん、2歳の息子まで『ざざえしゃん』と楽しみにしている番組のひとつです。

このサザエさん大人になってから見てもおもしろいんです。その面白さの一部をご紹介しますと思います。

### 1. 駄目なオヤジ波平の横暴ぶり

そもそもあの風貌で54歳という設定そのものが面白いのですが。。。家長として威厳を大切に、頑固者であり短気、「バカモン!」「けしからん!」が口癖のちょっと面倒な親父のイメージですが、酒豪で酒癖が悪い駄目なおじさんであることも有名です。波平の酒に関するエピソードが多数あり、他人の家を自分の家だと勘違いして入り込み布団を敷いて寝てたり・警察官の付き添いで帰宅・奥さんであるフネさんの名前が出てこない 等々「バカモン」級のダメおやじです。よくこんなことしているにも関わらずカツオを叱れるものだと感心しながら見てましたが、自分自身が親父になるとわかりました。だって子供には良識ある大人になってほしいのです。自分の事なんていくらでも棚上げしますよ。

### 2. 愛すべきサブキャラ達

カツオやワカメのお年玉からお金を借りようとしたり、勝手に磯野家に上りこんで昼寝はもちろんです。子供のおやつまで漁る図々しさの塊のノリスケ。カツオを未来の旦那としてターゲットに定め、鬱陶しいくらいのアプローチで小学五年生ですでに押しかけ女房のオーラ満載の花沢さんも好きなのですが、私のおススメキャラクターはなんといってもマスオさんの同僚の穴子さんです。27歳という年齢にも関わらず、なかなかの策略家なんです。・行きつけのスナックにマスオさんを誘い、マスオさんにはおばあさんを押し付け自分は目当ての若い女性をつけ、そのくせ奥さんへの言い訳で『フグ田君のお目当ての女性がいて誘われちゃったのさー』という始末。・呑み代がなく、奥さんにフグ田君の誘いでパイオリンを習うと嘘をつき、楽器代と授業代をせがむ。結果サザエさん経由で嘘がばれるのだが、最後までフグ田君が。。。とマスオさんを悪者に仕立て自分は難を逃れようとするといったまあクズな男なんです。全国ひどいカオ協会理事をやっているというエピソードも笑いが止まりません。現代風に言えばディスってるわけです。そしてたまにいいこと言うのも何処かピントがずれてるというか、『フグ田くん、早いとご家に帰った方が良いんじゃない? タラちゃんと晩御飯が待ってるんだろ』なんて。っていつもお前が誘ってじゃん!!!という突っ込みいれちゃいます。正直私がマスオさんならば、間違いなく友人として付き合うことはないです。

### 3. 原作当時の時代設定と現代との乖離と矛盾のおもしろさ

昭和30年代の東京という原作の時代設定なのは周知のことだと思います。

例えば磯野家の・テレビはブラウン管でかつリモコン式ではない型。テレビの前に行ってダイヤル回すタイプ・冷蔵庫はもちろん2ドア・電話は黒電話。しかし、たまに出てくる平成が混在したカオスを探すのも面白いかもしれません。

例えば・商店街の福引の景品が薄型テレビ・スカイツリー観光にデジカメで記念撮影、でもその横では電話ボックスで話す若者・波平が屋台から携帯で自宅に電話。フネさんは黒電話で応対・極め付けは「山の日って何?」というタイトル。家族観や性別観については古き昭和に固執とのギャップがすごくて。

私も子供ができてから久しぶりに見るようになったのですが長く続けることの大変さに敬意を払いつつ、引き際も大切なのだと感じるこの頃です。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』ドバイへの旅 2016.12.23~28  
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

「ドバイに行くならエミレーツだよな？」と訊かれた。1987年に誕生し今ではエアライン顧客満足度世界一位(二位がカタール航空、3位にシンガポール航空)。ドバイがなぜ飛行機ビジネスに力を入れるのか？中東の名の通り、世界の中心にありヨーロッパ、アジア、ロシアの大陸に近いということは世界から人を運んできやすく、中継地にもなると言うことだ。国際線旅客数2015年に世界一、成田は17位。確かに空港にはエアバスが並んでいる。これにファーストクラスが付いている。

炭鉱から観光に舵取り破綻した夕張市がどうすればよかったのか？観光の話をしてくれと言われ、最近よく言うことに、この地に無いテーマパークを造っても長くは続かない、それには人を飽きさせない継続的な投資が必要だからだ。相当な努力をし続けているディズニーランドみたいにするには不可能に限りなく近い。仮想の夢の世界を創れないのならどうする。

今ある資源をどう活かすか？例えば、我が町小山町であれば富士山五合目まで一流なロープウェイを通す。デザインも居心地もサービスも一流で無ければならぬ、運転開始から20年以上も経つロンドンビッグアイが今も乗るのに一時間も待たされるような存在するように。ケーブルカーでは駄目だ。高いところから眺めながら到着する先が五合目だ。世界遺産になり、山体をさわってはいけないうちで言いながら道路を改善して、車で人を上げているようでは、たかがしれている。富士山でできなければ、小生が応援している寸又峡温泉がある南アルプスの麓からどうだろうか？10億円あれば、相当なものができるだろう。我が町小山町はふるさと納税で16ヶ月で23億円超を集めることができた。不可能ではないだろう、世間には夢を求めたお金が有り余っていると思っている。マイナス金利の貯金から産まれるものは何もない、ドバイ首長ラシドの「お金を銀行に眠らせておいて何になる」の言葉が聞こえてくる。

話を元に戻す。堀沿い公園の電灯ポールに驚いた。な、何とUSBコンセントが付いていた。使っている女性もいた。これは今設計中の豊門公園の修景と森村橋の橋詰広場に取り入れようと思う。日本に既製品があるとよいのだが。

最終日はデザートサファリ「アラビア半島の野生動物に会いに行く！ネイチャートレイルツアー」だ。

イギリスの家族四人と一緒に観光になった。ドライバーはスリランカの出身。ドバイで4つのツアーに参加したが、いずれ



のドライバーもガイドも質は高く、気が利く。

砂漠に入るとまずはラクダのお出迎え、近寄り一緒に写真撮るもオッケー、撫でてもおとなしくしている。ただ、乗ることはできない。さらに砂漠を走っているとサンドガゼルに会うことができる。予め餌となる草を出して誘きだしているの、サンドガゼルを見逃すことは無い。とかげの類いを発見、しばらく見ていると、さっと砂の中に身を隠してしまった。

10時頃に朝食が用意されていた。ひよこ豆他アラブ料理がワンプレートで出された。砂漠の上に絨毯を敷き、そこに座り込んでいただいた。果物も用意されていた。

さらに走るとまさにオアシス、人工池が造られており、そこに鳥たちが集まってくる。ドライバーが気を効かせて、盛んに写真を撮ってくれる。勧められるままにとったジャンプポーズの写真が気に入っている。この日は8:15にホテルでピックアップしてもらい、帰ってきたのが12:00。まだ帰りの便には十分過ぎるほどの時間がある。一日乗り放題のメトロのチケットを買ってドバイ博物館のある旧市街地に繰り出した。シェイク・サイード邸、ここでは古いドバイの写真を多数見ることができ、面白い。この辺りはアラブの伝統的建築を残している。その後、ドバイモールに行き、残り少なくなった時を過ごした。(つづく)

